

9/9-15 #2 キリストはその行為が天的に支配されている方、私たちの牧者、私たちの安息、種まく者である Bird's Eye View キリストは、その行為が天的に支配されている(彼の衣の房)方として啓示されています。マタイ 9:20 すると見よ、十二年間も出血に苦しんでいる女が後ろから近づいて、彼の衣の房に触った。21 「彼の衣に触りさえすれば、私はいやされる」と、心の内で言っていたからである。22 イエスは振り向き、彼女を見て言われた、「娘よ、元気を出しなさい。あなたの信仰があなたをいやしたのです」。するとその時から、その女はいやされた。A キリストの衣は彼の義なる行為を表徴し、房は天的な支配を表徴します。「イスラエルの子たちに語って、彼らが代々にわたって衣のすそに房を作るよう、またそのすその房に青いひもを付けるように告げなさい。それはあなたがたのための房であって、あなたがたがそれを見るとき、エホバのすべての命令を思い起こしてそれを行なうためであり、…あなたがたの神に対して聖なるものとな[るためである](民15:38-40)1 ひもは縛ることを表徴し、青は天的であることを表徴します。2 ですから、青いひもは、神の子供たちとして、私たちの行為と振る舞いが美しくあるべきであり、天的な統治と制限と規制との支配、管理、拘束の下にあるべきであることを表徴します。B 衣は人の振る舞いにおける美德を表徴します。主の衣は、彼の人性における彼の完全な振る舞い、彼の人性の美德の完全さを表徴します。C 主イエスの人性の美德には、いやす力がありました。ですから、病んでいる女が彼の衣の房に触れたとき、彼の美德の力が彼女へと出て行き、彼女はいやされました。D キリストの天的に支配されている行為から、いやす力となる美德が出て来ます。E 主の衣に触れることは、実は主の人性の中の主に触れることでした。主の人性の中に神が具体化されていました。そのように触れることによって、彼の神聖な力が、彼の人性の完全さを通して、彼に触れた者の中へと注入され、それは彼女のいやしとなりました。F 近づきたい光の中に住む神が、奴隷・救い主の中で、彼の人性を通して、彼女の救いと享受のために、触れることのできるものとなりました。G 押し迫る群衆は奴隷・救い主から何も受けませんでした。彼に触れた者は受けました。H 主イエスは私たちの牧者であり、私たちは彼の羊です A 彼は私たちを牧養する初期の段階において、私たちに緑の牧場としてのキリストと憩いの水辺としてのその霊を享受させます。詩 23:1 エホバは私の牧者であって、私には欠けるものはありません。2 彼は私を緑の牧場に伏させ、憩いの水辺に私を伴われます。B 彼は私たちを牧養する第二段階において、私たちを義の途で復興し、造り変えます。詩 23:3 彼は私の魂を回復し、彼の御名のため

に、私を義の途に導かれます。C 彼は私たちを牧養する第三段階において、私たちが死の影の谷を歩いている時、私たちに復活した霊なるキリストの臨在を経験させます。詩 23:4 たとえ、死の影の谷を歩いても、私は災いを恐れませんが、あなたが私と共におられるからです。あなたの棒とあなたの竿、それらが私を慰めます。D 彼は私たちを牧養する第四段階において、私たちに復活したキリストをさらに深くさらに高く享受させます。詩 23:5 あなたは私の前に私の敵の前で、宴席を設け、私の頭に油を塗ってくださいます。私の杯は満ちあふれています。1 主は私たちの前に私たちの敵の前で、宴席を設けます。2 主は私たちの頭に油を塗り、私たちの杯は満ちあふれています。3 詩篇 23:5には、三一の神がおられます。御子は宴席であり、その霊は塗り油であり、御父は祝福の源です。E 彼は私たちを牧養する第五段階において、私たちにエホバの家で神聖な良きものと慈愛を生涯にわたって享受させます。詩 23:6 私の命の日の限り、必ず良きものと慈愛が私を追いかけて来ます。私は日々いつまでもエホバの家に住みます。1 霊なるキリストの有機的な牧養の下で、私たちの命の日の限り、良きものと慈愛が私たちを追いかけて来ます。私たちは日々いつまでもエホバの家に住みます。a 「良きもの」はキリストの恵みを指しており、「慈愛」は御父の愛を指しており、「追いかけて来る」ことはその霊の交わりを暗示しています。こうして、御子の恵み、御父の愛、その霊の交わりが私たちと共にあります。b 手順を経て究極的に完成された三一の神に対する享受は、私たちを神の家(キリスト、召会、私たちの霊、新エルサレム)における神に対する享受に導き入れます。私たちは神の家に、私たちの命の日の限り(現在の時代、来たるべき時代、永遠において)住みます。2 私たちが命の日の限り、神の家に住むことを追い求める必要があるのは以下の事のためです。a 神の麗しさ(愛らしさ、楽しさ、喜ばしさ)を見つめるため。b 神に尋ね求めて、私たちの日常生活のすべての事を神に確かめるため。c 神の避難所にかくまわれ、私たち自身を神の天幕の隠れ場に隠すため。d 神によって上げられ、頭が高く持ち上げられるようにするため。e 喜びの叫びの犠牲をささげ、神の栄光のために神に向かって歌い、詩を歌うため。III 主イエスは私たちの安息です A 「すべて労苦し重荷を負っている者は、私に来なさい。そうすれば、私はあなたがたに安息を与える」(マタイ 11:28)1 ここで述べられている労苦は、律法の戒めや宗教的規定を守ろうと努力する労苦を指しているだけでなく、何かの働きに成功しようとして奮闘する労苦のことも指しています。このように労苦する人はだれでも、常に重荷を負っています。2 安息は、律法や宗教あるいは働きや責任の労苦と重荷から解放さ

れることを指しているだけでなく、完全な平安と全き満足も指しています。**B**「私は心の柔和なへりくだった者であるから、私のくびきを負い、私から学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。なぜなら、私のくびきは負いやすく、私の荷は軽いからである」(マタイ11:29-30): **1**主のくびきを負うとは、御父のみこころを取ることで、それは、何かの働きによって規制されたり制御されたりすることではなく、御父のみこころによって拘束されることです。**2**主はそのような生活を、御父のみこころ以外の何も顧慮しませんでした。彼はご自身を、完全に御父のみこころに服従させました。ですから、主はご自身から学ぶように私たちを求めているのです。**3**彼から学ぶとは、外側で彼を模倣することではなく、主のくびき(神のみこころ)を負うことによって、私たちの霊の中で主を複製することです。神のみこころは、私たちのくびきとならなければなりません。私たちは自分の首をこのくびきの中へと入れて、彼の複製とならなければなりません。**4**主のくびきを負い、彼から学ぶことによって私たちが見いだす安息は、私たちの魂のためです。それは性質において内側の安息であり、何か外側のものだけではありません。**5**主のくびきは御父のみこころであり、彼の荷は御父のみこころを遂行する働きです。そのようなくびきは負いやすく(良い、親切な、柔和な、温和な、楽しいを示し、困難な、過酷な、辛い、苦しいの反対です)、またそのような荷は軽く、重くはありません。**IV**種まく者は主イエスのすばらしいパースンであり、まかれた種も三一の神の具体化としての主ご自身です **マタイ13:3** 彼は多くの事を、彼らにたとえて語って言われた、「見よ、あの種まく者が、種をまきに出かけた。**A** 私たちは種まく者であるキリストが、ご自身を命の種として人の中へとまくというビジョンを見る必要があります。このビジョンは主の回復の心臓部です。なぜなら、それは主の心の願いと関係があるからです。**B** 彼が願っているのは、彼が彼の選ばれた民である私たちの中へと入って来て、ミングリングの方法で私たちの命となって、ご自身を私たちの要素とならせ、私たちを彼の表現とならせるということです。**C** キリストの中で再生され、神の命を持っている信者たちは、神の耕された地であり、神の新創造における農場です。それはキリストを成長させて、神の建造のための尊い材料が生み出されるためです。**D** 聖書によれば、成長は建造と等しいのです。これが起こるのは、私たちの内側の命の神聖な種が成長することによります。**コロ2:19** かしらに結び付いていないのです。この方から、からだ全体は、節と筋によって豊かに供給され、結合され、神の増し加わりによって成長するのです。**E** エペソ3:17が啓示しているのは、三一の神が私たちの中へと入って来ており、

要素としてのご自身をもって、また材料としての私たちからのものをもって建造の働きを行なうということです。これはマタイ13章の種まく者のたとえによって例証されています:**エペソ3:17** またキリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように。またあなたがたが、愛の中に根ざし土台づけられ、**1**主は、土壌である人の心の中へとご自身を命の種としてまきます。それは、彼が成長して、彼らの中で生き、彼らの内側から表現されるためです。**2**種は土壌の中へとまかれて、土壌の養分をもって成長します。その結果、生み出されるものは、種と土壌の両方からの要素の構成物です。**3** 私たちの内側には、神によって創造された養分があります。それは神が私たちの中へと入って来て私たちの中で成長するための備えです。神聖な種のために、神は人の養分を持つ人の霊を造り、土壌として人の心も造りました。**4** 私たちが命において成長する速度は、神聖な種にかかっているのではなく、どれだけ多くの養分を私たちがこの種に与えるかにかかっています。私たちが養分を供給すればするほど、種はますます速く成長し、ますます繁茂します。**5** もし私たちが自分の魂の中に、天然の人の中にとどまるなら、神聖な種の成長のための養分は何もありません。しかし、私たちが内なる人の中へと増強されるなら、また私たちの霊に注意を払い、私たちの霊を活用するなら、養分が供給されて、キリストが私たちの心の中にご自身のホームを造ります。**エペソ3:16** どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、あなたがたを内なる人の中へと増強してくださいように。**6** もし私たちが、命の種としての主に私たちの内側で成長していただき、私たちの満ち満ちた享受となっていたきたいのであれば、私たちは主に完全に開き、主と協力して、私たちの心を徹底的に対処しなければなりません。**7** 一方で、神は要素としてのご自身をもって私たちを増強します。もう一方で、私たちは養分を提供します。これら二つの事を通して、キリストにある神は、私たちの全存在の中で、彼の内在的な建造、彼のホームの建造を遂行します。

**CP1** 主イエスは私たちの牧者であり、私たちは彼の羊である。彼の牧養は私たちを徐々に第一段階から導き、前進させ、第四段階に至る **II** 主イエスは私たちの牧者であり、私たちは彼の羊です **A** 彼は私たちを牧養する初期の段階において、私たちに緑の牧場としてのキリストと憩いの水辺としてのその霊を享受させます。**B** 彼は私たちを牧養する第二段階において、私たちを義の途で復興し、造り変えます。**C** 彼は私たちを牧養する第三段階において、私たちが死の影の谷を歩いている時、私たちに復活した霊なるキリストの

臨在を経験させます。詩23:4 たとえ、死の影の谷を歩いても、私は災いを恐れませんが、あなたが私と共におられるからです。あなたの棒とあなたの竿、それらが私を慰めます。D彼は私たちを牧養する第四段階において、私たちに復活したキリストをさらに深くさらに高く享受させます：詩23:5 あなたは私の前に私の敵の前で、宴席を設け、私の頭に油を塗ってください。私の杯は満ちあふれています。1主は私たちの前に私たちの敵の前で、宴席を設けます。2主は私たちの頭に油を塗り、私たちの杯は満ちあふれています。3詩篇23:5には、三一の神がおられます。御子は宴席であり、その霊は塗り油であり、御父は祝福の源です。

第三段階は、死の影の谷を通して、復活した霊なるキリストの臨在を経験する段階です。たとえ死の影の谷を歩いても、私たちは災いを恐れませんが、なぜなら、霊なるキリストが私たちと共におられるからです。これは、私たちが彼の臨在を経験することを意味します。...私たち人は、この地上で生活するとき、問題を避けることはできません。...ある聖徒たちは、体の不自由な子供を持つかもしれません。これは、これらの聖徒たちを谷へともたらしめます。ある兄弟はある地方の長老であり、主は突然、別の長老をもたらし、この兄弟は彼と組み合わされるのが難しいかもしれません。この別の長老は、初めの長老にとって死の影の谷となります。彼はこの別の長老と争うことはできません。争うなら、彼の霊を怒らせるでしょう。彼はその人と一つ思いを保たなければなりません。さらに、彼の霊は彼が退くことを許さないでしょう。彼は谷にとどまって苦しまなければなりません。これらは死の影の谷の例証です。

第四段階は、復活したキリストのさらに深くさらに高い享受です。主は私たちの前に、私たちの敵の前で宴席、祝宴を設けられます。主の宴席は祝宴です。毎主日、私たちは主の宴席に来て祝宴にあずかるとき、それは常に私たちの敵の前です。毎日が私たちにとって戦いの日です。私たちクリスチャンは戦わなければなりません。そうでないと、私たちは打ち破られてしまいます。仕事に、家庭に、召会にさえ、敵がいるかもしれません。一方で、私たちは主の祝宴を享受し、もう一方で、勝利のために戦うべきです。もし私たちが週の間打ち破られるなら、主の宴席を多く享受することは難しいでしょう。

#### 適用: 青少年・大学生、新人編

証1 私が大学生の時、ゼミ活動の一環で、企業と協力してあるプロジェクトを進める機会がありました。個人的な研究とは違い、全員で役割を分担し、協力する必要がありました。そのような責任を伴ったプロジェクトを人と協力して進めるというのは、

私を含めゼミ学生にとって初めての経験でした。時間が経つにつれて、学生同士で責任を押し付け合い、意見が衝突して人間関係が悪くなることが増えていきました。私も多く問題に巻き込まれて、今まで個人で研究をしているだけで良かった時には無かった圧迫された環境により、非常に苦しんでいました。私は圧迫され、強いられて多く主に祈るようになりました。私は多く祈るようになった後、多くの問題に巻き込まれている中でも、内側には平安と喜びの感覚があるようになりました。それだけではなく、内側に平安と喜びの感覚がある事によって、考え方の違いによる対立だと思っていたものが、実はただ人間関係の問題である事に気づき、問題に対する解決案を出すことが徐々にできるようになっていきました。主は私に、死の影の谷の中でキリストの復活の力を体験するように絶えず導いてくださった事を感謝します。

証2 訓練の中では、何をしても基本的に他の兄弟姉妹と組み合わせられる必要があります。自分一人でもできることなのに、他の人の意見や考えをも気にしなければならなかったため、自分の期待に沿わない結果となることが多くありました。文化や性格などの違いから衝突や摩擦が起きて、気まずい状況の中でなぜかその人とばかり他の奉仕でも組み合わせられました。なぜ主は私ばかりこのようなつらい環境を与えるのだろうと、理解できませんでした。自分一人で全部をやってしまえば、どれほど楽だろうと思うこともありましたが、しかし、もし私が死の影の谷にとどまらず、この環境から逃げないのであれば、復活した霊なるキリストの臨在を経験することはできないと思います。主に感謝します！このような環境の中で、主の名を呼び求めて、キリストの復活の力を体験して、私の自己や特異性を十字架につけることができますように。

祈り おお主イエスよ、あなたは私の牧者であり、私はあなたの羊です。第一段階で、緑の牧場としてのキリストと憩いの水辺としてのその霊を享受します。第二段階で、義の途で復興され、造り変えられ、第三段階で死の影の谷を歩いている時、復活した霊なるキリストの臨在を経験します。第四段階は、復活したキリストをさらに深くさらに高く享受させます。この段階で、主は敵の前で私たちのために宴席を設けられます。一方で私は主の祝宴を享受し、もう一方で、勝利のために戦います。

CP2 命の種を成長させる養分は、土地である人の心にある。心を主に完全に開き、主を愛し、自分の頑固さを対処するならば、命の種は成長できる

IV 種まく者は主イエスのすばらしいパーソンであり、まかれた種も三一の神の具体化としての主ご自身

です。A 私たちは種まく者であるキリストが、ご自身を命の種として人の中へとまくというビジョンを見る必要があります。このビジョンは主の回復の心臓部です。なぜなら、それは主の心の願いと関係があるからです。E1 主は、土壌である人の心の中へとご自身を命の種としてまきます。それは、彼が成長して、彼らの中で生き、彼らの内側から表現されるためです。2 種は土壌の中へとまかれて、土壌の養分をもって成長します。その結果、生み出されるものは、種と土壌の両方からの要素の構成物です。3 私たちの内側には、神によって創造された養分があります。それは神が私たちの中へと入って来て私たちの中で成長するための備えです。神聖な種のために、神は人の養分を持つ人の霊を造り、土壌としての人の心も造りました。4 私たちが命において成長する速度は、神聖な種にかかっているのではなく、どれだけ多くの養分を私たちがこの種に与えるかにかかっています。私たちが養分を供給すればするほど、種はますます速く成長し、ますます繁茂します。5 もし私たちが自分の魂の中に、天然の人の中にとどまるなら、神聖な種の成長のための養分は何もありません。しかし、私たちが内なる人の中へと増強されるなら、また私たちの霊に注意を払い、私たちの霊を活用するなら、養分が供給されて、キリストが私たちの心の中にご自身のホームを造ります。6 もし私たちが、命の種としての主に私たちの内側で成長していただき、私たちの満ち満ちた享受となっていたきたいのであれば、私たちは主に完全に開き、主と協力して、私たちの心を徹底的に対処しなければなりません。7 一方で、神は要素としてのご自身をもって私たちを増強します。もう一方で、私たちは養分を提供します。これら二つの事を通して、キリストにある神は、私たちの全存在の中で、彼の内在的な建造、彼のホームの建造を遂行します。

キリストは種であり、私たちは種の成長のための栄養分のある土壌です。復活におけるキリスト、命を与える霊としてのキリストが、ご自身を私たちの中へとまいたのは、ただ私たちの中にとどまるだけでなく、私たちの中で成長するためです。

#### 適用:ビジネスパーソン、大学院生編

証 私は、神のエコノミーはキリストが私の心の中にかかれ、そして成長することであることを証します。私は救われた直後から、主を愛し、召会のすべての集会に参加するようになりました。また、半年後にはブラザーズハウスに住み始めました。しかし、神のエコノミーについての理解がなかったため、大部分、天然の力に頼って召会生活をしていました。天然の力に頼って奉仕を一生懸命していたので、奉仕をあまりしない他の学生の兄弟姉妹に対する

罪定めと高ぶりが内側にあり、それらにいつも悩まされていました。私が初めて徹底的に天然の命に頼っていることを悔い改めたのは、大学を卒業して、進学のため徳島から大阪に移動するフェリーの中でした。私は涙を流しながら次のように祈りました、「おお主イエスよ、私は自分の天然の力に頼ってあなたを愛し、召会生活と奉仕を行っていました。私はあなたを愛しているようで、実はあなたに逆らっていました。私の天然の命は、高ぶりと罪定めで満ちていて、全く頼りになりません。主イエスよ、私の罪を赦してください」。もちろん、この時から天然の力の問題がすべて解決したわけではありませんが、少しずつ、自分に頼らないことを学び始めました。

大学院を修了後、台北で全時間訓練に参加した時に、私は天然の命に頼らず、命の水の流れの中で奉仕をしているアンドリュー・ユー兄弟の模範を見て、非常に助けられました。私は彼が輝いているのを見て、彼を観察しました。彼は非常に優秀な人でしたが、自分の天然の能力に頼らず、務めの導きと一つになり、主と組み合わせられていた兄弟たちに信頼して、聖霊の流れの中で奉仕しており、いつも供給と権威がありました。また、彼はいつも若い訓練生である私たちを励ましていました。その模範を見て、私は納得させられ、征服させられました。そして、30歳になって働き始めてから、ビジネスパーソンの模範になるという明確な目標をもって仕事を始めました。もちろん、目標があってもなかなかうまくいきませんでした。目標をもって祈っている時に気付いたことは、主が私の心の中に広がり、私の心にホームを造らなければ、主と同労することができないということです。それは単に私が主に信頼するかどうかだけの問題ではなく、更に進んで、主を心の各部分に住ませ、主と一つになることでした。このためには、私は完全に心を主に開く必要がありました。例えば、主があまり気にしていない些細なことで、私は気になり、疲れ果てていました。また別の場合、主が気にかけておられることを、無視してしまいました。これらの経験を通して、私は今のままでは、主と同労できないことに気付きました。そして、次のように祈りました、「おお主イエスよ、私の心にあなたがほとんど住んでおられないのは、私があなたに降伏し、完全にあなたに開いていないからです。頑固な私を憐れんで下さい。私の内なる人、再生された霊を増強してください」。その後、私は少しずつ、召会の人数の増し加わり、集会所の購入、ビジネスライフにおける決断などで、主のすばらしい祝福の下で、主と同労する経験を始めました。